

自然システム学専攻	研究分野	環境生理学	Lab. ID NS08
研究室Webサイト	http://rinkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/		
研究課題の概要			
<p>魚類生理学(特にカルシウム代謝)を研究しています。魚のウロコには、骨芽細胞と破骨細胞が共存しています。カルシウム代謝に関与するホルモンのウロコの細胞に対する応答を調べた結果、ヒトと同様に作用することがわかりました。したがって、骨モデルとして使用可能だと思います。そこで魚類生理学の研究(環境汚染物質や重力応答など)に加えて、ヒトの骨を治す薬の開発も行っています。さらに最近、海産無脊椎動物の内分泌学や毒性学の研究も開始し、今後、水生動物を中心に研究を進めていく予定です。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
ゼミナールにおいて、英語の論文を紹介したり、自身の研究成果を発表します。必ず、1年間で1回は、学会で発表します。			
研究室生活の紹介等			
能登の臨海実験施設で泊まりながら研究をしています。特に夏は、多くの研究者が来訪されるので、研究者と共に夕食をとることが多くなります。			
教員からのメッセージ			
海の動物のことが好きな方は、歓迎します。魚釣りが研究の一環でもあります。水生動物を研究したいと思う方は、お勧めの研究室だと思います。教員が、積極的に学生の就活の支援をしております。			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2017.3	硬骨魚類の骨代謝に及ぼす環境汚染物質の影響		
2017.3	カタユウレイボヤにおける CCK/gastrin の機能解析		
2017.3	低出力超音波パルスに対する骨芽細胞及び破骨細胞の応答		
2015.3	骨に対する放射線の影響およびメラトニンによる放射線のレスキュー作用の解析		
2015.3	重力に対する骨芽細胞及び破骨細胞の応答解析		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			
修了年月	タイトル		
2017.9	Structure and biological activities of calcitonin and procalcitonin amino-terminal cleavage peptide (カルシトニンとアミノ末端プロカルシトニンの構造と生物活性)		
2014.3	EFFECTS OF ENVIRONMENTAL POLLUTANTS ON OSTEOCLASTS AND OSTEOBLASTS OF TELEOST SCALES (真骨魚類のウロコの破骨細胞及び骨芽細胞に対する環境汚染物質の影響)		
2013.3	DEVELOPMENT OF A FISH SCALE <i>IN VITRO</i> CULTURE APPARATUS FOR SPACE BIOLOGICAL EXPERIMENTS AND GRAVITY RESPONSE OF OSTEOBLASTS AND OSTEOCLASTS IN FISH SCALES (魚のウロコを用いた宇宙生物実験用培養実験装置の開発とウロコの骨芽細胞および破骨細胞の重力応答)		
研究室連絡先メールアドレス	氏名 <鈴木信雄>e-mail: nobuos@staff.kanazawa-u.ac.jp		